

# 子宮頸がんワクチンに補助を

## 今後の検討課題／町長



かど した にわ こ  
門田 仁和子 議員

ヒトパピローマウイルスの感染によるもので、がん検診とのセットでほぼ100%予防が出来る。そのためワクチンは世界中で使われ、国内でも12歳の女子にワクチンを接種した場合、がんの発生を年間約73・1%減らせるとの試算がされている。

効用期間は20年、しかし3回接種で5万円程かかる。ワクチン接種への公費助成を表明する自治体が全国的に拡大しているが、黒潮町として県内の自治体に率先して取り組んではどうか。

**問**

若い女性に増え続ける子宮頸がん、その対策が大きく前進している。

海外では100カ国以上で予防ワクチンが承認され大きな効果を上げている。日本ではやっと昨年10月に厚労省が承認し、12月に発売スタート。がん対策情報センターによると子宮頸がんは20代から40代の女性のがんの発症率でトップ。日本では年間約1万5千人が発症し約3千5百人が亡くなっている。主な原因は、

**答**

下村町長

大塚 佐賀健康福祉課長

予防のため3回の接種が高額なことと普及を妨げている。ワクチンの有効期間、効果、

安全性などをアメリカで研究中。日本では一部の自治体が公費負担をしている。厚労省ではワクチンの有効性、安全性、副作用、適用年齢等を研究している。黒潮町でも公費負担は手の届くところにあり、今しばらく検討したい。

### 六曜の記載を

つちの日記載は検討  
／佐賀副町長

町発刊カレンダー

**問**

以前は子、牛、寅などの十二支や、大安、仏滅、友引など六曜がカレンダーに印刷されていたが、多くの町民から文字が消えて非常に不便になったとの声を聞く。葬式やお

通夜の時真っ先に見るのは友引の日だ。12月の最初の巳の日は亡くなった人の正月でお供えをする。これらは古くからの風習で、迷信かもしれないが、他のカレンダーを見る必要があり不便。復活する予定はないか。

また、つちの日は、その期間に木や竹を切ると必ず虫が入ると言われ、大工や農家の方は非常に関心を持っている。つちの日は古代中国の陰陽五行説に基づいたもの。庚午(かのえうま)の日を初日として丙子(ひのえね)までの七日間を大つち、翌々日の戊寅(つちのえとら)から甲申(きのえさる)までの7日間を小つちと言う。年6回くらいの割合で回ってくる。

虫の入る根拠は不明だが、カレンダーにつちの日を入れるよう要望する。

**答**

山本 佐賀副町長

日本では六曜(先勝、友引、先負、仏滅、大安、赤口)が

一般のカレンダーに記載されている。日本に於て影響力が強く主に冠婚葬祭などの儀式と結びついて使用。六曜は中国で生まれ、いつの時代から暦として確立されたか不詳。科学的根拠のない迷信で差別や偏見につながる事から平成12年度より記載してない復活の予定もない。

つちの日に虫の入る根拠を科学的に立証した事例は現在のところない。この事をカレンダーに載せる事によって無用な混乱を招く事もないので、つちの日を参考にしたい人のために前向きに検討する。

